

川崎市市制 100 周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会

第 5 回 市制 100 周年幹事会

摘録

日時：令和 5 年 8 月 2 日（水）10：00～12：00

場所：川崎信用金庫 登戸支店会議室

出席者：幹事長 川崎信用金庫 浅岡部長

副幹事長 富士通株式会社川崎工場 松本シニアマネージャー

幹事 川崎商工会議所 遠藤総務部長（代理出席）

株式会社 チッタ エンタテインメント 若井課長

かわさき若者会議 青山氏

かわさき市民放送株式会社 大西代表取締役社長

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会 荻野課長

一般社団法人川崎市観光協会 北嶋主任

新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアム 内藤事務局長

日本電気株式会社玉川事業場 中山主幹

味の素株式会社川崎事業所 森次長

事務局：小池事務局長、金井事務局課長、石井事務局課長、石垣事務局課長、藤井事務局課長 他

コアメンバー：富士通株式会社 池田マネージャー

株式会社ホリプロ 須之部副部長

（敬称略）

1 開会

2 報告

報告第 1 号：市制 100 周年・緑化フェアの一体的な広報展開の考え方について（資料 2）

報告第 2 号：市制 100 周年記念事業ウェブサイトのバージョンアップについて（資料 3）

報告第 3 号：新規参画団体について（資料 4）

報告第 4 号：実行委員会第 3 回総会について（資料 5）

報告第 5 号：市制 100 周年式典の概要について（資料 6）

—資料 1～6 について説明

【内藤委員】

広報の取組として、駅のジャックは目立つのでいいじゃないですか。要は、みんなに知ってもらおうというのはいいのかなと思います。これはどのくらいの期間、ジャック広告をするようなイメージなんでしょうか。

【事務局】

現在検討中ですが、例えば令和6年1年間をずっとやり続けると、かなり膨大な費用がかかってくる可能性がありますので、その辺り、取組の集中期間を設定して、どこの時期にどの程度やるのがいいのかというところを現在調整しております。

【内藤委員】

何か大きいイベントがある前の1週間もしくは1か月前などに効果的に打ち出して、イベントを告知することで、イベントが盛り上がると思います。ずっと長くこれをやっていると、多分見飽きてしまうので。

【事務局（金井）】

そうですね。一番のところでは、緑化フェアの秋と春がございますので、そのときは緑化フェアを押し出したり、フェス&カンファレンスを押し出したりということで、それぞれの事業を紹介するようなところも併せてやっていきたいなと思っております。

【内藤委員】

自分がたまにまいるのが新百合ヶ丘なので、新百合ヶ丘を選んでいただいております。

【小池事務局長】

川崎駅側に寄らないよう、中部、北部についてもしっかりとやっていきたいと思っております。

【内藤委員】

ぜひ、お願いします。例えば、乗降客や乗換えが多い登戸駅なんかは、JR線と小田急線を繋ぐ通路は、かなり人が行き来をされると思うし、そういう部分は有効的じゃないかと思っております。

【中山委員】

広報については、100周年の大きなフラッグを作成していただくと、例えばNECの玉川事業所にでかいビルがあるんですけど、あそこにかけて、かなり目立つので、ぜひ御協力させていただきたいと思っておりますし、そういうフラッグとかがあれば、例えば幹事の会社さんのところを順番に掲示していくことができれば、いろいろなお披露目ができるので、広報効果が高いのではないかと思います。

【事務局（金井）】

秋以降、事務局の職員が、それぞれの参画団体に担当を設けて一軒一軒、回っていかうと思っておりますので、その中で、こういう広報ができるという、今のような御意見をいただきながら、それに沿うようなもの、何をつくればいいのかを考えて、参画団体の方にも御協力いただきながら進めていきたいと思っております。

【中山委員】

そうですね。以前たしか、富士通さんのところでプロジェクションマッピングをやられましたね。ああいったものをいろいろなところでやっていくと、すごく目立っていいんじゃないかなという気がします。ぜひ御検討いただければと思います。

【浅岡幹事長】

例えば、うちも本店のロビーであれば、掲出できるスペースがかなりありますので、幹事会に限らず、実行委員会企業で可能なところは、手を挙げていただける範囲で広報をし、委員会参画団体全体で盛り上げるというような、草の根的な広報をさせていただければと思いますので、そういった働きかけもお願いをしたいなと思います。

【内藤委員】

市内各地に花壇がありますが、例えば新百合ヶ丘では5月と10月に、デッキ上にある花壇にみんなで花を植える取り組みをしています。参加者としては、一般の人たちも含めて、会員企業も行政も一緒になって百何十人の人たちが花植えをしているんですが、来年はいよいよ100周年になるので、新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムとしても最大限協力をさせていただきたいと思いますし、この取組に実行委員会の皆さんにもぜひ参画いただきたいなと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

市内各地にこういった花壇はあると思いますのでピックアップしていただき、川崎駅だけでなく、川崎市全体でこういった盛り上げしていきたいと思います。

【小池事務局長】

現在、市の事業としてもいろいろと検討してしまして、各区役所もみどりの取組について検討していますので、そういった取組も含めて検討していくことや、緑化フェア推進室もいろいろなところに回りながら、取組可能なことについてこれから働きかけていくと思いますので、皆様からもいろいろなご意見をいただければ幸いです。

【北嶋委員】

以前、駅にデジタルアートを映し出す、プロジェクションマッピングのようなものをやられるという話を聞いたと記憶していますが、その後の進捗はいかがでしょうか。

【小池事務局長】

現在の駅ジャックの中では検討していないですが、これからいろんな事業が出ていく中で、もしそういった提案がありましたら、検討できる部分は俎上に上げていければと思います。

【荻野委員】

今のお話に関連して、この間、川崎駅のビジョンで、川崎の100年みたいな感じの映像が流れていたんですけど、すごくいいなと思っていて、もっと多く流せばいいのにと感じました。また、広報物としてフラッグとかいろいろなものがありますが、歩行者はスマホを見ていたり、下を見ている人が多いので、階段のラッピングのような、目線が下でも目に入るよ

うな広報の仕方というのもいいのかなと思いました。

また、先ほどの花壇のお花に関連して、先ほどのノベルティの中にしおりと種がついているのがあったので、これをうまく使っていくと、これで芽が出てお花が咲いたら持ってきてもらい、花壇に植えるといったこともできるのかなと思います。

私たちのところは研修センターでいろいろな方がお越しいただくので、何かノベルティがあれば、研修参加者の方にも積極的にお声がけして配布してもいいのかなと思っています。

3 議事

●実行委員会主催事業について（案）（資料7）

●かわさき みどりの共創プロジェクトの概要について（資料8）

—資料7、8について説明

【小池事務局長】

少し補足ですが、このみどりの共創プロジェクトは緑化フェア推進室がみどりの取組としてどんなことができるかというのを、企業などを集めて別途取り組んでいるものでございます。昨年から続けておまして、何ができそうかというものが少しずつ生まれつつある状況でございます。緑化フェア推進室の取組ですが、これを実行委員会主催事業として実施していきたいと考えてございますので、具体的になってきたタイミングで幹事会に諮り、事業の承認をいただいて進めていきたいと思っておりますので、本日はその現状報告でございました。

●議案第1号:Colors, Future!Actions フェス&カンファレンス 2023 企画内容について（資料9）

—資料9について説明

【内藤委員】

字面だけでは分かりにくい部分があるので、こういった題材で、それぞれの会場で開催する内容や出演者がどういう方なのかなど、カンファレンスの具体的内容がわかるような資料にしてもらえたらと思います。総会の時にも、もう少し具体的な中身が分かるような説明が必要かなと思います。

【浅岡幹事長】

それぞれのカンファレンスの中身というのは、これから詰めていくというイメージでよろしいですか。

【事務局（須之部）】

具体的に何を話してもらうかなどは、スクリプトをつくっていますので、例えば、ざっくりと都市緑化とか、女性活躍だとかがありますが、これだけでははっきり伝わらないと思いますので、そこを今つくり込んでいるという段階です。

【浅岡幹事長】

通常ですと、2か月ぐらい前から広報を始めてというようなタイムスケジュールかと思いますが、開催が11月17、18日ということなので、いつ頃から参加募集を開始される予定でしょうか。市民の方に知っていただく時間は長い方がいいかなと思います。

【事務局（須之部）】

それもあって8月の総会にて、まず頭出しをさせていただき、そこから少しずつ盛り上げていければというイメージでおります。

【小池事務局長】

毎月発行している市政だよりの10月号が、100周年記念事業の特集号となっていて、その中でもフェス&カンファレンスは大きく取り上げていく予定でございます。

【事務局（須之部）】

市民参加については事前予約制を考えており、直前まで募集する予定です。

【浅岡幹事長】

市庁舎が新しくできて、見学を兼ねて参加される方が結構いらっしゃると思うので、その辺のさばきはぜひお願いしたいと思います。

【森委員】

予算に関して確認させていただきたいのですが、トータルで5,000万円のうち現時点では3,600万円ほどは目途が立っているとのことですが、最終的にギャップが生じた場合にはどのように対処することになるのでしょうか。

【事務局（須之部）】

利益が出た場合は利益分配になりますが、損失が出た場合は、損失を製作委員会のメンバーで負担するというのが基本的な考え方になりますので、そうならないよう、例えばプロモーション費を抑えるなどして予算内に収まるようにしていく予定です。一方で、協賛金の営業についても引き続き行っていきます。

【森委員】

フェス&カンファレンスの会費（300万円）以外に将来的に費用が必要となると、それはプロジェクト参加組織にとっては“リスク”とも捉えられます。最終的に予算を超過することになった場合、損失の負担を受け入れられる組織とそうではない組織があると思いますので、予算の目途をしっかりと立てて取組みを進めたほうが安心感を持てると思います。

【事務局（須之部）】

製作チームが3会場をロケハンし、これくらいのコストに収まるといったことをずっとやってきているチームですので、そこは御安心いただければと思います。

【森委員】

もう1点確認させてください。フェス&カンファレンス製作委員会は100周年実行委員会とは別の独立した組織との認識ですが、フェス&カンファレンスで予算超過が発生した場合に実行委員会としては先ほどの損失分配に加わらないという理解で間違っていないでしょうか。

【事務局（荻本）】

まず、製作委員会については別組織となります。ただ、実行委員会の事業を実施するためにつくっている組織ですので、下部組織的な位置付けですが、責任の所在というのはそれぞれにありますので、独立しているイメージで構いません。損失分配については、あくまでも入っている7社に加え、我々の実行委員会も一員になっていますので、万が一損失が出た際の応分負担の中には、実行委員会も入っています。

【森委員】

ご説明ありがとうございます。理解できました。そうしますと、損失が出た場合には監査人を除く8組織が8分の1ずつか、出資割合か、何らかの割合で負担することになるということですね。

【事務局（荻本）】

そうです。皆さん300万円の中、実行委員会は1,500万円を出しているのです、どういう分配になるのかというのはありますけれども、損失が一番大きくなるのも実行委員会となります。

【浅岡幹事長】

普通に考えると出資割合で応分の負担ということですね。

【事務局（荻本）】

そうですね。

【浅岡幹事長】

一応そういう形だということですので、御認識をいただければと。

ほかにはございますでしょうか。よろしいですか。

【内藤委員】

このフェス&カンファレンスは、来年の一番大きな目玉になるものと思いますので、ぜひそれにつながるように、今年度は実施していただければいいなと思います。

【大西委員】

スケジュールについてですが、11/5 がスタートとありますが、カンファレンスはいろいろ

なテーマを3会場でやるというのは分かりましたが、フェスティバルというのはどれに当たるのでしょうか。

【事務局（須之部）】

具体的には、この時期に開催される各イベント、例えば11/5の市役所通りのイベントであるとか、川崎夜市であるとか、既存のイベントをデジタルスタンプラリーといったツールを活用して一体感を持ってやっているように仕立てていくものになります。このサミットが来年以降も継続するのであれば、またいろいろなイベントがここにどんどん集まっていくようになると、川崎の11月はたくさんのイベントが開催され、盛り上がっていると皆さんに認識されるようになるのではないかとというのが狙いです。

【大西委員】

それぞれのイベントについて、このサミットが横串を刺して、共通で取り組むことや共通の何かがあるといったようなことは考えてやっていく想定はありますでしょうか。

【事務局（須之部）】

今、具体的に何かということろまでは、到達し切れていないので、取りあえずはデジタルスタンプラリーを活用して、一体感や横串を刺しているという形に、最低限今年はしたいなどは思っています。

【浅岡幹事長】

ほかにはいかがですか。よろしいですか。

それではまた、今の皆さんの御意見を参考に、総会のほうには御報告いただければと思います。

●議案第2号：「脱炭素」プロジェクトについて（資料10）

—資料10について説明

【内藤委員】

感想ですが、とても川崎らしい取組だと思いました。今、本当に求められていますし、一番将来につながる大きな事業になるんだろうと思いますので、ぜひ頑張っていたいただきたいと思います。

【大西委員】

非常に重要な課題だと思えますし、我々メディアとして関わっている中でも、市民や地域全体の行動変容は重要であり、また非常に難しいことであると感じているところなので、この取組は成功してほしいと感じます。質問ですが、このプロジェクトは資料にある環境アプリありきで進める前提でしょうか。また、アプリでポイントを貯めると資料にあるとおり、参加する方にとってメリットがある、楽しいことがある、などアクションに繋がるような仕組みがあるということでしょうか。

【事務局（池田）】

まず我々のこのアプリは、プラットフォームと市長もおっしゃっていただいているんですが、企業が乗りやすいプラットフォームになっていると思います。まずはこのプラットフォームが中心にあるような取組になっていくのかなと、今は考えています。

【大西委員】

このアプリは、富士通さんが開発されていって今後もサービスを継続させていくというもののんでしょうか。

【事務局（池田）】

そうです。

【大西委員】

アプリの事業収入としては、どういう仕組みになっているのでしょうか。

【事務局（池田）】

この取組は我々富士通としてチャレンジングな取組でして、アプリ自体はまだ実証で進めています。商品として世に出していくものではなく、実証としてやっていますので、その延長として川崎市の皆様を巻き込んで、この脱炭素社会実現というものにチャレンジしていくことを目指していますので、現状は、何か富士通として収益を上げているモデルにはなっておりません。

【大西委員】

では、参加する市民の課金、もしくはアプリ内広告収入や、企業が参画する際にフィーが発生するというようなことは、今のところは計画にないのでしょうか。良いサービスであれば是非継続してサービス提供をいただけるように、と考えると、ゆくゆくは収益化も考えていかなければいけないと思います。今後の話になるのかもしれませんがご検討ください。

【事務局（池田）】

今年度については考えておりませんが、ただ、来年度、再来年度、これを自走しなければいけないとなったときに、当然、行政のお金や100周年のお金があてにできないとなったときに、ではどういった方々からお金をもらいながら自走していくかについては、今まさに検討しているところでございます。それは富士通でも考えていきますし、こういった場で議論をさせていただきながら、皆様の知見をいただき、そういった自走可能な事業モデルを一緒に考えていくということも、実行委員会主催事業として検討すべきことなのかなと思っていきます。

【浅岡幹事長】

アプリで非常に大事なのが、使えるところと、どうやってたまるのかなというのが個人的に

も興味があります。その辺のつくりによって、全く価値が変わってくると思います。今、具体的に何かお考えとしてはありますか。

【事務局（池田）】

これも我々として、検討中でして、まだ固まったものはないです。ただ、実証しながらの気づきとしてお話しさせていただくと、去年はポイントを軸に取り組んできたアプリになっています。それは何かというと、エコアクションをするとポイントがたまると。そのポイントの使い先として、先ほどの連携事業者だと、日産さんのEV車のシェアリングサービスのクーポンに換えられるというようなことをやっていました。これは今おっしゃったとおり、どんどん集めていかなければならないので、持続可能ではないと思っていますし、ポイントとか金銭的価値は行動変容の継続にはなかなかつながっていかないと考えています。

その中で、これからは楽しいとか、もっと違う観点で入り込んでいくことに取り組んでいきたいと思っていますので、ポイントというところはあまり軸にせず、楽しさといったところも考えながらやっていきたいと思っています。

【浅岡幹事長】

金銭的価値というのは多分求められないんだろうと思うので、例えばポイントを何ポイント以上集めると、エコイベントに参加できる権利がもらえるとか、そういった何かステータスとなるようなポイントなんだろうなとイメージはしています。そこにはやはり、提供できるコンテンツに魅力がないと、ポイント自体の価値というのが出てこないと思います。これまでいろいろな類似例を見てきましたが、どうしても立ち消えになってしまって、例えば神奈川県でやっていた「ぴよ」は最初はよかったんですが、いつの間にかなくなってしまったなとかがあったりもするので、ぜひ、レガシーになるようなものを目指していただければと思います。

【森委員】

本プロジェクトは、今回挙げられている4つのプロジェクトの中で最もスケール感が大きい、つまり、それだけ難しく、関与する方々もとても多い取組みであると感じています。取組みの主旨や考え方については違和感なく、異論ありませんが、川崎でやる意味をどのように表現すべきかという点はとても難しいと思います。持続性という点を意識しつつ、今後、どのようにPRするのかということを中心に考える必要があると思います。

【浅岡幹事長】

これは、参加する方は川崎市民である必要はなく誰でもよくて、脱炭素の取組のきっかけとして、川崎発で発信をして、あわよくば日本中に広がればいいなと、そういう発想の取組ということでしょうか。

【事務局（池田）】

おっしゃるとおりです。

【内藤委員】

川崎の100年を振り返ってみると、高度成長の中で川崎は脱炭素とは真逆の歴史を歩んできていて、この川崎市が脱炭素に向けて、一般市民の方含めて、どう取り組んでいくのか、どうしていくのかというのは、本当にいい題材、テーマだと思います。企業だけではなく、できるだけ一般市民の方も参加しやすく、企業と一緒に何かやっていくみたいな、そんなきっかけになればいいなと思います。これから川崎市が本当に取り組まなければならないことで、臨海部を含め、いろいろなところで脱炭素が本当に求められ、目指して行かなければならないことだと思いますので、そのきっかけになればと思います。これだけ川崎市、富士通さんを含めて、いろいろな企業が先進的に取り組んでいるところがあるので、川崎のパワーを結集してほしいなと思います。

あと、共創モデルといってもなかなか分かりにくい部分があるので、共創モデルとして、今、こんなことを取り組んでいるんですよみたいな部分を、小出しでもいいから、ホームページなどに載せながら、啓蒙をしていくようなことを考えてもらえたらなと思います。

【浅岡幹事長】

ほかにはよろしいですか。

それではプロジェクト案、方向性としてはこういった形で進めるということで、幹事会としては承認ということによろしいでしょうか。

(全員異議なし)

それでは全会一致で御承認ということにさせていただきます。ありがとうございました。

●議案第3号：公共空間を活用した賑わい創出プロジェクト（資料11）

—資料11について説明

【浅岡幹事長】

本件は、プロジェクト案の承認と事業費、具体的には500万を上限という承認、こちら2点の承認を求められておりますが、この点を考慮しながら、御意見、御感想をいただければと思います。

【青山委員】

これ、100という数字を強調しながら、若者をターゲットにしていくとおっしゃっていたと思うんですけど、具体的にはどのように広報していくのでしょうか。

【事務局（長瀬）】

広報については、ホームページやSNSなどでの発信を考えています。

【青山委員】

私実際、川崎市に住んでいる若者なんですけど、若者は川崎のイベントなどはあまり意識していないかなと感じていて、100周年ということも、周りのみんなは特に意識おらず、全然興味ないっていうのが本音なところだと思っています。せっかくこのような楽しそうな

イベントをやるのなら、100周年の川崎というのを、もう少し若者にダイレクトに届けられるような仕掛けがあったらいいなと思いました。

【事務局（長瀬）】

ありがとうございます。そうですね、広報については若い方や、あまり興味のない方々にも刺さるようなものを工夫して取り組んでいきたいと思います。

【浅岡幹事長】

若者にはどのようなものが刺さるのでしょうか。例えばインフルエンサーを活用するなどでしょうか。

【青山委員】

インフルエンサーもそうだと思いますが、今どきは皆、ツイッターやインスタグラムなども見ないかなと感じていて、それよりも、やはり川崎駅はよく若者が行く場所だと思うので、駅前あたりにこういうイベントをやりますという広報をすとか、あとは、今はおそらく掲示板なども見る人が少ないと思うので、もっと周りの大人の人とかが、家に帰ったときに、こういうイベントがあるらしいよと話すだとか、若者から若者ではなく、大人から若者に伝達するというところも考えていただければと思います。

【浅岡幹事長】

ちなみに紙媒体の市政だよりは見たことありますか？

【青山委員】

市政だよりは、昔は読んでいましたが、今は川崎市であまり生活してないので、時々読む程度です。

【浅岡幹事長】

今の若い世代は、紙媒体って見ない人多いですか？

【青山委員】

そうですね。友達が載っているとか、自分の興味があるトピックなどが流れてきたら読みますが、みんなあまり自分の地元に興味がなく、紙媒体のものやテレビなども見ないですね。

【北嶋委員】

それでは、普段はどういった手段で情報収集をされているんですか。

【青山委員】

私の場合はかわさき若者会議などの情報コミュニティがあるので、川崎のイベントなどは自分から知りたいと思って知りにいってます。ですが、みんなは地元は寝るだけの場所になっていて、時々大きなイベントがあったら、昔から知ってるから行くみたいな感じで、情報

収集などはしておらず、地元の情報は自動的に入ってくるくらいですね。このイベントも、私たちが伝えたいと思っている100周年ということなどは、みんなあまり受け取らずに、楽しいことがあるから行くみたいな感じで、そこにずれが生じているかなと感じています。

【北嶋委員】

引きつけるようなポイントがもっと欲しいということですね。

【青山委員】

そうですね。行ったらいいことがあるとか、あとは、私は来年20歳になるんですが、川崎市が100周年をむかえるということを同年代の人たちの1割も知らないのではないかと考えているので、来年の二十歳を祝うつどいでも川崎市が100周年をむかえることを知らせていけたら面白いんじゃないかなと思います。

【事務局（長瀬）】

ヒントをいただけたなと思ったのは、駅で広報を見かけたら行くかもしれないという話あったと思うんですけど、このイベントは市役所通りですが、当日はその奥の富士見公園でも市民まつりをやっています。川崎駅の北口通路は今、フロンターレの広告が両面に並んでいるんですが、そこもこのイベントに合わせて飾り立てようという案がまちづくり局のイベントとしてあるんですが、そういった、駅を降りたらもうイベント感があって、富士見公園のほうまでずっとイベントがつながっているみたいなことを考えているので、今の御意見を踏まえ、工夫していきたいと思います。

【内藤委員】

イベント前に、来年予定している駅ジャック広告のミニ版のようなものを、例えば1か月前、2週間前と、徐々に告知をしていき、盛り上げていくみたいなのがいいのではないかと思います。例えば、川崎駅北口の川崎フロンターレの広告が、全部このイベントの広告に変わっているとか。今年度からというのは難しいのかもしれませんが、このイベントが社会実験だとしたら、そういった広報の実験もあっていいのかなと思いました。それと、今年のイベントをぜひ成功していただいて、来年は川崎駅、市役所前だけでなく、中部、北部と市内のいたるところで、公共空間を使ったイベントと一緒に考えさせていただきたいなと思います。来年度はぜひ新百合ヶ丘で何かいいコラボイベントができればなと思っていますので、そのためにも、ぜひ成功させていただきたいなと思いました。

【小池事務局長】

ありがとうございます。この100周年記念事業は、シティブランディングというか、皆さんに届けていくというのが永遠の課題だと感じています。シティプロモーション推進室も、先日、インスタグラムを開設しましたが、先ほどの青山委員の、最近の若者はインスタも見ないという話を受けてかなり衝撃だったんですが、どのような形で伝えていけばいいのかなと日々検討しています。現在、市内の様々なイベントに出向いて地道なPR活動をしていて、それを広げていくということが非常に重要ですので、我々も頑張りますし、また、皆さ

んからお知恵をいただきながら、皆さんのリソースを活用させていただいた広報を展開していくなど、そういったところで、地道に広げていくということもやっていきたいと思えますので、引き続き知恵と御尽力をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【浅岡幹事長】

それでは質問や御意見は大体出尽くしましたでしょうか。それではプロジェクト案の承認、そして事業費の承認について特に反対の意見はないということによろしいでしょうか。

(全員異議なし)

ではプロジェクト案、事業費、ともに承認ということによろしく願いいたします。特に広報につきましては、若い世代の御意見を取り入れながら、ぜひ取り組んでいただければと思います。

●議案第4号：提案型募集事業について（資料12）

—資料12について説明

【浅岡幹事長】

審査の内容など、いろいろ多岐にわたりますが、まずはテーマ案を設けることについてはいかがでしょうか。

【内藤委員】

テーマ案については、一例としてはいいと思いますが、推奨テーマはこれですというのは前面に打ち出さないほうがいいと思います。

【浅岡幹事長】

テーマから外れたら駄目というわけではなく、推奨テーマに沿っていると審査の中で加点されるということですよ？

【事務局（荻本）】

はい。このテーマでなければ駄目ということではございません。

【浅岡幹事長】

加点割合を多くするのはどうかということはある程度ありますが、ある程度の指針という意味では、あったほうがいいのかなと思います。これ以外のテーマでも、優れていれば採択されるでしょうし。

【内藤委員】

加点されるのなら、みんなそれになってしまうのではないかと思うので、個人的には、もっとフリーにいろいろな提案をもらった方がいいのではという気がします。

また、共創ということの観点で、要件として「提案事業者は2以上の企業・団体等で」との記載がありますが、そこまで縛る必要はあるのかなと思いました。1者でも、提案の中身

がよかったらいいのではないかと思うので、募集時から2者以上と制限してしまうのはどうなのでしょうか。

【事務局（荻本）】

応募時は1者だったとしても、最終的には他団体を巻き込んだ形のプロジェクトでないと採用されないという方向性はよろしいでしょうか。

【内藤委員】

募集要項に2者以上と明文化してしまうのはどうなのでしょうか。提案内容によっては1者でも構わないとするとか。

【浅岡幹事長】

結構根幹に関わるころだと思うので、どうでしょうか、事務局サイドとしてはどのようにお考えですか。

【事務局（荻本）】

最終的に1者の応募であったとして、事業実施の際に、一緒にやるプレイヤーの方や、市民を巻き込んだ形のものであれば、視点としてはずれていないのかなと思いますが、最初から1者のみだとすると、他にプレイヤーがいることが提案の中で見えなかった場合、審査の中で点数がつけにくいと考えています。100周年記念事業のコンセプトとして、皆さんが集まって共に創っていくということを非常に重要視しているので、1者で御提案いただいて内容に共創感がないと、他の実行委員会主催事業と並べたときに、他のものと異なってしまうところを危惧しています。ですので分かりやすく、募集の段階から2者以上としました。書き方を含めて、共創モデルと分かるような形で記載したいと思っています。

【内藤委員】

例えばですが、新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムという団体が提案をするといったときに、構成員は九十何社ありますが、これは1者となってしまうのでしょうか。

【事務局（荻本）】

共同事業体であれば、共創の趣旨に合致すると思います。

【内藤委員】

でしたら、それが分かるような記載にした方がいいと思いました。
すみません、自分のところがと言っているわけではないですが、誤解のない記載にしていたければと思います。

【小池事務局長】

趣旨的には、皆さんと一緒につくり上げるというようなコンセプトの中で進めさせていただきたいと思っていますが、記載の内容については少し工夫させていただくという形でよ

ろしければ、そういう方向で考えたいと思いますが、いかがでしょうか。

【浅岡幹事長】

先ほど1社随契のような形は好ましくないという御発言がありましたが、そういった趣旨からいくと、収益は生まれてはいけないという感じでしょうか。

【事務局（荻本）】

収益が生まれても構いません。

【浅岡幹事長】

例えば経費を賄う程度ではなく、純利益が出ても内容次第で採択もあるということでしょうか。

【事務局（荻本）】

はい。

【浅岡幹事長】

その辺は御質問があればお答えするところかなと思いますので、共同事業体であれば1者ではないということが分かるような表記を検討していただくということでしょうか。よろしいですか。

【森委員】

取組みの主旨からすると単なる新事業コンテストではないので、このような内容、表現にせざるを得ないと思いますが、一方で、コラボレーションという点がとても難しいように感じます。しかも、取組みの永続性を期待するとさらに難易度が高くなると思うので、仮に応募時点では単独（1社）であったとしても、後に複数の団体による取組みに発展することがイメージできるのであれば応募を認めてもよいのではないかと思います。

【浅岡幹事長】

そこについてはどうでしょうか。現在の応募要件だと、応募時点では必ずしも共同体、要は複数である必要はないと言っているのですが、事業実施までには複数者であることが条件になっているわけで、事業を実施したとしても、翌年、さらにその先というところをどこで期限とするのか。交付するまでには確認ができるようにする必要があります。極端な話、来年実施するとして、結果実施しなかった場合もあり得なくはないと思うので、複数団体にて実施しているかを、交付するときには見えていないといけないのかなと思います。

【事務局（荻本）】

まさにそこは我々も思っているところでして、令和7年度以降はこの実行委員会が解散になってしまうので、経過を追うことが難しい中で、今、幹事長がおっしゃったとおり、お金を支払う観点では、どこかの時点で確認ができないとお支払いできないところがございま

すので、実施までの間に共創モデルというか、共同体になっているかは審査の中で確認したいと思っています。

【浅岡幹事長】

コンセプトとして共創が前提ということであれば、そこは事務局のお考えとしては、多分譲れないところなんだろうと思います。実行委員会の趣旨として、共創してつくり上げましょうというのがあるので、今期はこの形でやってみて、もし1者からも応募がなければ、来年考えましょうということになるかもしれませんが、今期はこの方向でよいのかなと思います。御意見はありますか。

特によろしいですか。それでは共創モデルということを中心に、事業実施までには複数者であることが確認ができることを応募要件とすることで、進めていただければと思います。

【事務局（荻本）】

ありがとうございます。また、幹事会の皆様に審査委員を引き受けていただくことについてはどうでしょうか。

【浅岡幹事長】

皆さん、都合が許す限りでお引受けいただける方にはぜひ審査委員をお願いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。

（全員異議なし）

ではその時の都合に応じてということできたいと思います。

それでは引き続き、皆さんの御意見を踏まえて進めていただければと思います。

●議案第5号：実行委員会参画団体主催事業・パートナー主催事業の概要及び機運醸成について（資料13）

—資料8について説明

【浅岡幹事長】 今の御説明につきまして、何か御質問、御意見ございますか。

特にございませんか。私から一つ。事業登録した際のメリットについては、事業がホームページのカレンダーに掲載されることくらいでしょうか。

【事務局（猿田）】

そうですね。事業実施前の登録は任意でして、登録いただければカレンダーにも載りますし、ACTION記事という形で記事化もされることもあります。あとは、メールマガジンやニュースレター、かわさきFMさんと連携しての発信だとかに取り上げられやすいというメリットもありますので、ぜひ事前の登録もしていただければと思います。

【浅岡幹事長】

広報の一助になるということでしょうか。

【事務局（猿田）】

そうですね。そのためにホームページのリニューアルもさせていただき、ビジュアルライズで広報の一助にさせていただきます。

【浅岡幹事長】

ほかにはいかがですか。よろしいですか。

では、ぜひ前向きに事業を進めていただければと思います。

●議案第6号：協賛計画（案）について（資料14）

—資料14について説明

【浅岡幹事長】

早期というのは、協賛の申込みであって払込みではないということでしょうか。

【事務局（坂口）】

おっしゃるとおりです。企業様の決算期等も関わってくると思うので、協賛は送金をいただいたときではなく、申込みの意思表示していただいたときに早期申込みが適用されます。

【浅岡幹事長】

払込みの期限はあるのでしょうか。

【事務局（坂口）】

払込期限は設けていませんが、金額も大きくなるケースが多くなると思いますので、協議の上という形になると思います。

●議案第7号：令和4年度事業報告（案）及び収支決算（案）について（資料15）

—資料8について説明

【浅岡幹事長】

今の報告について、何か御質問、御意見ございますでしょうか。今期については川崎市の負担金だけが収入ということで、支出についても、記載のとおり必要経費かと思います。皆様、よろしいでしょうか。

（全員異議なし）

では、このまま総会に御報告いただければと思います。

5 閉会

以上